2022 年度 ESD/SDGs 実践記録

１　実施校，対象（学年，人数）　山ノ内町立南小学校　６学年　15 名

２　探求課題・活動実践の概要，ねらい，目標等

（1）**テーマ**「佐野遺跡の魅力再発見　竪穴住居をつくって地域の憩いの場にしよう」

（2）**目　標**　①身近な地域にある佐野遺跡について知り、自分が住む地域に誇りをもつ。
②他地域との交流から，山ノ内町を見つめ直す。

（3）**ねらい**　**「佐野遺跡」を中心とした山ノ内町南部地区に対する価値観の変容を促し，それを広げる行動を起こす。**

（4）**ESD の視点，育成する資質・能力**

①構成概念・・・・相互性　「豊かな町を守るには，森，ゴミ問題など様々なことが関連する」
責任性　「何もしなければ，佐野遺跡の価値を知る人が少なくなってしまう」
有限性　「資材には限りがあり、無駄なく見通しをもってものをつくろう」
連携性　「竪穴住居をつくるには，多くの人との協働が必要だ」

②資質・能力・・・未来像を予測して計画を立てる力
多面的・総合的に考える力
つながりを尊重する態度（色々なものや人のお陰で自分がいることを感じる。）

（5）**関連する SDGs**　**11 住み続けられる町づくり　12　つくる責任　つかう責任**

（6）**探求課題・活動実践の概要**

①　身近な地域にある「佐野遺跡」について知ろう（社会学習と関連させて）
・専門家の講義　・郷土資料室にある土器の説明　・土器の乾拓、湿拓体験

②　修学旅行での学習
・足尾銅山の見学（産業の環境の関係）
・日光東照宮の見学（観光をいかした住み続けられる街づくりのあり方・日光市）
・富岡製糸場の見学（労働環境のあり方・ジェンダー平等について）

③　佐野で採集した赤土で土器づくり
・地域の方の講義（興隆寺）　・テラコッタ粘土で土器づくり　・窯で素焼き

④　交流と発信
・静岡県牧之原市立細江小学校６学年と定期的にオンライン交流（計３回）
・ESD やまのうち交流会への参加（町内の６年生と交流）

⑤　竪穴住居作りに挑戦
・建築場所の検討　・材料の調達　・竪穴住居調査　・竪穴住居作り

⑥　佐野遺跡の価値、竪穴住居を建築したことを発信
・ホームページ作成

３　流れ（指導計画の概略）　（数字は実際に使った時数）

４月　佐野遺跡について知る④　細江小との交流②
５月　修学旅行事前学習④　地域調査（身近な地域にどのような史跡があるか）④
６月　修学旅行（足尾・日光・富岡）⑫　土器の乾拓、湿拓体験②
７・８月　縄文土器づくり⑩　探究課題決定④　細江小との交流②
９月　ESD 体験学習②　竪穴住居づくりの計画⑩
10・11 月　竪穴住居づくり⑩　やまのうち ESD 交流会と校内発表②　校内発表②
12 月　佐野遺跡学習のまとめ
１～３月　細江小との学校との交流　信州 ESD 成果発表交流会

他教科との関連：社会「歴史学習」　図工「土器づくり」　国語「日本文化を発信しよう」

４　効果，反応，所感

私たちが住んでいる地域の魅力的なものといえば、志賀高原、渋温泉、湯田中温泉、スキー場など、南小学区にないものばかりが思い浮かぶ子どもたち。一方で、身近な地域には国指定の史跡「佐野遺跡」があるが、その価値を理解している子ども達は少ない。佐野遺跡を学ぶことを通して、「縄文人がこの土地に暮らしていたことに驚いた」や「自給自足のくらしは持続可能な社会づくりにつながっている」など遺跡に関心を寄せていた。子ども達からは、「土器をつくりたい」「住居を建てたい」という意見が寄せられたため、それらを課題としてどのようにすればよいか探究した。縄文人のくらしの知恵を知り、この豊かな土地の魅力を感じられることができた。

５　指導方法，体制の工夫（協力者や資源）

①　養田　武さん（山ノ内町役場）　②　水谷　瑞希さん（信州大学教育学部）
③ 清水　守さん（志賀高原ガイド組合）　④畔上　不二男さん（山ノ内町教育委員会）